



5:11 こういうわけで、私たちは、主を恐れることを知っているのです。人々を説得しようとするのです。私たちのことは、神の御前に明らかです。しかし、あなたがたの良心にも明らかになることが、私の望みです。

5:12 私たちはまたも自分自身をあなたがたに推薦しようとするものではありません。ただ、私たちのことを誇る機会をあなたがたに与えて、心においてではなく、うわべのことで誇る人たちに答えることができるようにさせたいのです。

5:13 もし私たちが気が狂っているとすれば、それはただ神のためであり、もし正気であるとすれば、それはただあなたがたのためです。

5:14 というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。

5:15 また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。

5:16 ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

5:19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のこぼを私たちにゆだねられたのです。

5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。

パウロは自分の動機や熱心さをコリント教会の人々に知って欲しいと願っています。それは自己推薦のためではなく、彼らをして「うわべのことで誇る人たちに答えることができるように」させるためです。クリスチャンは謙遜が必要ですが、それは自分を単に目立たなくすることではありません。主のためには人々の注目を浴びる場合もあります。むしろそれは言い訳のできない立場であり、本当に謙遜にさせられるものです。パウロは人々の成長のためにあえて自分の証しをしているのです。

人は同じように行動してしていても、その動機によって周囲への影響が違ってきますし、また何かの出来事でその内面が明らかになってしまうものです。パウロの動機はまさに「キリストの愛」でした。イエス様を愛して行うことならば、純粹な動機と言って間違いのないものです。

イエス様すなわち「死んでよみがえった方」のために生きるなら、それは人間的な生き方ではありません。目的も力も原理もまったく違います。当然、人を見る目も物事を見る目も全く違ってきます。それこそが「新しく造られた者」です。

それは人との愛の関係、特に和解のわざに表れます。神との和解は救いの本質であり、人との和

解はクリスチャンの美しい証であり、力ある証しです。キリストのために生きる者であるなら、あらゆる人と愛の関係を築くようにしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

